



令和7年度 長崎県若年性認知症研修



令和7年12月5日(金) 13時30分開始 長崎県行政棟大会議室AB

(主催)長崎県長寿社会課

13:30 開会

13:35~
13:50

【紹介】長崎県若年性認知症サポートセンターの活動について
長崎県若年性認知症支援コーディネーター 藤島 涼子

1部

13:50~
14:50

テーマ 「若年性認知症方の支援と利用できる制度」

講師 国立長寿医療研究センター 認知症疾患医療センター
精神保健福祉士 高見 雅代氏

14:50~15:00休憩

2部
15:00~
15:50

テーマ 「話をきいて症状を理解してほしい!
できることを奪わないでほしい!」
～生活のしづらさから生まれた工夫で、生活を楽しむこと～

講師 愛知県認知症希望大使 土赤 伸生氏
愛知県作業療法士会 伊藤 篤史氏

16:00閉会



国立長寿医療研究センター 認知症疾患医療センター
精神保健福祉士 高見 雅代氏

◆平成16年から 国立長寿医療センター（現：国立研究開発法人国立長寿医療研究センター）にて、ソーシャルワーカーとして勤務。

◆高齢者および認知症の患者・家族の相談援助業務に従事。

◆令和4年から 認知症疾患医療センターにて、地域連携および相談援助業務に従事。

◆精神保健福祉士、社会福祉士、公認心理師

1部 講師紹介

2部 講師紹介

○愛知県認知症希望大使 土赤 伸生氏

- ・長年、製造業の仕事に従事。
- ・58歳の時に、若年性アルツハイマー型認知症と診断。
- ・診断後も就労を継続し、60歳でいったん退職後も再雇用で2年間就労を継続。
- ・2024年4月に愛知県認知症希望大使を委嘱。現在は認知症本人の集いの場に積極的に参加し、仲間と交流しながら自身の思いを伝えている。
- ・認知症になった後、すごく多くの人々が助けてくれていることを実感した。そして、誰かを助けたいと思った。
- ・認知症の人が集まる会で、5分くらいしゃべる機会があった。もっとやりたいと思った。
- ・仕事がリハビリにもなるとも思っているし、自分の意志で何かをしているときは自分を保っている。「できるだけ頑張らない」と思った。
- ・認知症の進行が怖かったこともあり、この先のことを考えるとじっとはできなかった。



2部 講師紹介

- 特定医療法人共和会 在宅介護事業部 活動支援課
認定作業療法士
- 愛知県作業療法士会
愛知県認知症希望大使とともに委員会 伊藤 篤史氏

若年性認知症の方の通所介護の経験を踏まえ、現在認知症の方と生活を一緒に楽しむ支援を行っている。日々の関わりの中にある何気ないことで一緒に笑い合い、できることを一緒に思いっきり楽しむ事を大切にしている。作業療法＝リハビリテーションだが、機能向上を目指すだけでなく、今まで生きてきた生活を振り返りながら人生の山を下りる支援（実り多き下山）をしていくことも含めて認知症の人への作業療法と考えている。生活のなかで大切にしている作業を通じて自分を取り戻し、地域社会のなかでの居場所を得て、人とつながっていく地域社会参加を実現しようと日々奮闘している。

